

オペラの夕べ

日時： 平成16年4月14日（水）18:30～21:00

出演者： 下村 雅人 二期会会員、日本演奏連盟会員、国立音楽大学卒業
山崎 浩美 藤原歌劇団団員、佐賀県音楽協会会員、国立音楽大学卒業
廣川 抄子 東京芸術大学卒業
丹生谷 佳恵 都立多摩総合精神保健福祉センター講師
日本演奏連盟会員、国立音楽大学卒業

会場： アトリエ・ムジカ（代々木）

揃い踏みー1

山崎さん、下村さん、廣川さん

1. 企画にも苦労します

2001年に始めた年一度のNMCの行事一月例会として催す「オペラの夕べ」、実は企画者としては中々苦労が絶えない。

まず第一は「企画案」を論客が集まる理事会の承認をとること。2002年末にやったようにNMCの「新生」をPRするべく、万事大盤振る舞いにできれば話は全く別となる。

よい歌手、よい伴奏者、よい会場、を得ること（優れた芸術家にリーズナブルな価格で引き受けて頂くこと、便利で、音響効果も良く、安い会場を得ることも中々難しい）

芸術家同士の折り合いも微妙なものだ。（第一回はそれで失敗した。結果的にはメンバーチェンジで成功したが・・・）歌手の組み合わせ（ソプラノとテノールか、テノール同士か、ソプラノ同士か、ソプラノとバスかなどの組み合わせ）も曲目の組み合わせやお値段との関係もあり調整に苦労する。

そんな中で企画者が懇意にしている二期会のサロンコンサートで物色したこれはという歌手にアプローチして半ばボランティアで我々の企画に協力していただけることとなった。

2. 下村雅人さんに感謝

父君大和氏詩曲による「喜寿に寄す」を歌い上げる下村さん

今年が4回目だが、いずれも下村雅人さんという、海外でも活躍した、40台のテノールで、歌手仲間で

もお顔が広い、実力派の歌手が主役だ。彼にコンビを組んで頂くのは第一回はソプラノの音楽大学の先生もしている鈴木さん、第二回は同じテノールの男性、第3回は予定歌手が直前急病で慌てたが、代役の工藤さんが好評で一安心。第4回（今回）は前回急病で聴けなかった山崎浩美さんの満を持しての登場だ。期待通りのモーツアルトの魔笛の「夜の女王」の高音の素晴らしさだった。

当日のプログラムは別添の通りだが、此れを決めるのにも一波乱あった。下村さんの意向で前半は日本歌曲中心にしたいと言う。私は日本歌曲はできるだけ少なくという。聞けば、地方では日本歌曲やクラシックとは言えないポピュラーな歌を中心にしないとコンサートが成り立たないという。日本のクラシックファンの底の浅さが悲しい。

もう1つ今回の特色はヴァイオリン独奏の広川抄子さんが加わったことだ。我々にとっては予想外の楽しみだが、予算がなくて追加支払いが出来ない。下村さんに泣いて頂いた。つらい話だ。しかもその曲目に注文をつけ、マスネ作曲の「タイースの瞑想曲」を入れて頂いた。

今回皆さん大変だったが、ピアノ伴奏の丹生谷さんは曲目が多い上に、ヴァイオリン曲の伴奏までされた。難曲が多く大変だったと思う。1つぐらいは独奏をして頂いたらと思い、丹生谷さんをお願いしたところ、丹生谷さんは快諾され、ショパンを弾いた。有難かった。

下村さんのトーク
を笑顔で支える丹
生谷さん

3. 今回の来場者や当日の進行状況など

幹事の分担は受付が顔の広い広瀬さん、会計とプログラム作成が福島さん、懇親会用買い物と案内作成が北山さん、企画と渉外が石塚という分担だ。前は失敗したが、今回は旨く行った。

来場者は非会員の有料入場者が27人、出演者の家族等の無料入場者が5～6人、NMCの会員が約50人で計80人強と盛会だった。お陰で収支差引き費用約10万円で通常例会の約6.5万円に比べて3.5万円の出費で会員多数に楽しんで頂けた。幹事の苦労も吹き飛んだ感じだ。

当日は生憎の小雨模様にもかかわらず予想以上に来会者で幹事一同ほっと一息だ。まず阿片理事長のご挨拶、次いでバトンを下村さんにお渡しし彼のトークで進めていただく。

今回は女性が複数だった為か、着替えが2回あり、（下村さんも2回着替えした！）大いに楽しませて頂いた。

当日のアンコール曲は「大きな古時計」、もっと聴きたかったが何しろヴァイオリンを入れて19曲。もう限界だった。出演者の皆さんご苦労様でした。

終わってからの懇親会も中々の盛況だった。(記念写真をとり忘れて残念だった)その後で有志と出演者で2次会で盛り上がったが、懇親会で酒とつまみを出したのでそれで帰る方も多く、改善の必要を感じた。

早くも来年もとの声も聞く。下村さんもそろそろネタ切れというし、一工夫したい。皆さんよろしくご支援ください。

揃い踏みー2

丹生谷さん、山崎さん、下村さん

(文責 石塚)

[月例会報告目次へ](#) [NMCトップへ](#)